

葉 シ ョ ウ ガ ・ シ ョ ウ ガ (露地) (黒ボク土)

〔土壌肥料〕

本品目は、栄養生長から生殖生長に不完全であるが転換する型である。窒素吸収パターンは山型を示すため、根茎が肥大した後の土壌の残存成分は比較的低位に制御できる。施肥は、葉シヨウガおよび根シヨウガ等の収穫時期により適切な量や方法を選択する必要がある。

〔病害虫・雑草防除〕

本作物では根茎腐敗病が最も重要な病害である。本病は病根茎の種シヨウガ伝染と土壌伝染であるので、排水良好な土壌で栽培し、健全塊茎を植え付け、発病が認められたら周辺土壌を早期に除去する。なお、本病は6～8月に雨が多いと多発しやすい。発病を見たときは周辺土壌を早期に除去する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施肥を基準とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあつたては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥(年間) 2～3t/10a
化学肥料 低減技術	基肥は、畝内のみの局所施肥とする。 有機質肥料による施肥を行う。 肥効調節型肥料を利用する。	成分量で施肥基準 以下 有機質肥料併用の 場合には化学肥料 低減率20～50%
化学農薬 低減技術	B T 剤を利用する。 (対象：アワノメイガ、ハスモンヨトウなど) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象：ハスモンヨトウ) 生育期には防虫ネットで被覆する (対象：アワノメイガなど) 対抗植物(ギニアグラスなど)を利用する。 (対象：ネコブセンチュウ) 黄色灯を設置する。 (対象：アワノメイガ、ハスモンヨトウ等) マルチ栽培を行う。(対象：雑草)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	堆肥中の成分含量を考慮して堆肥投入量を調節するか、基肥量を加減する。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	